

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

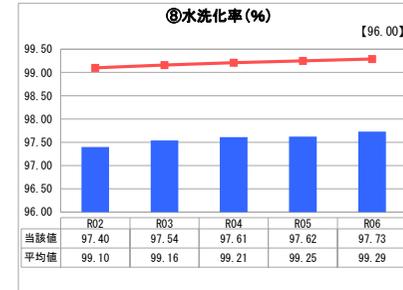
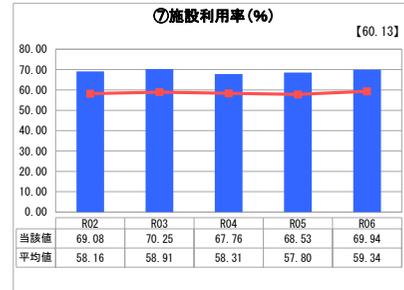
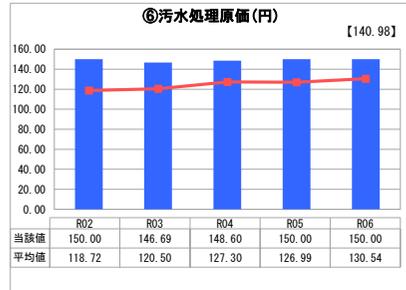
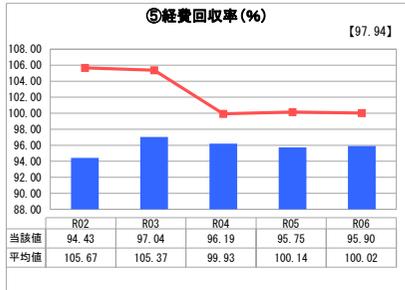
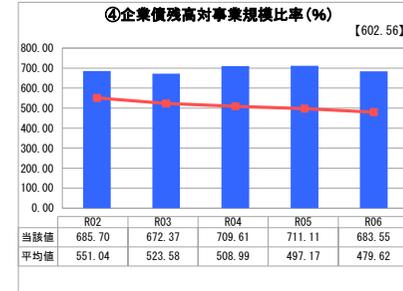
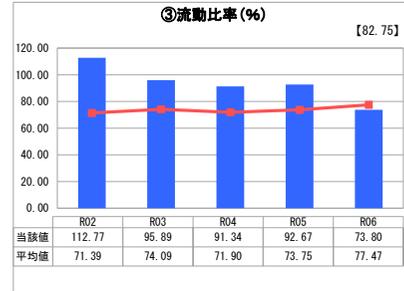
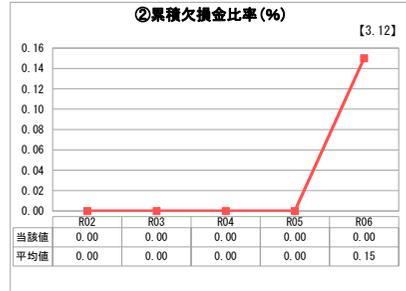
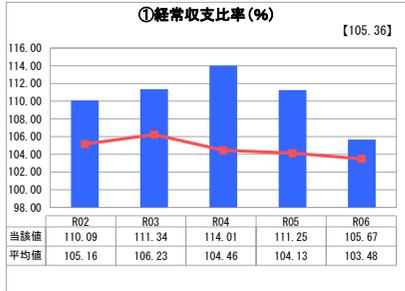
熊本県 熊本市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	55.98	91.26	82.80	2,346

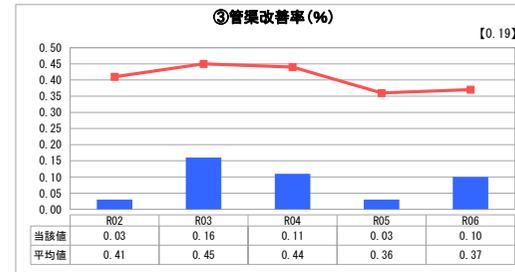
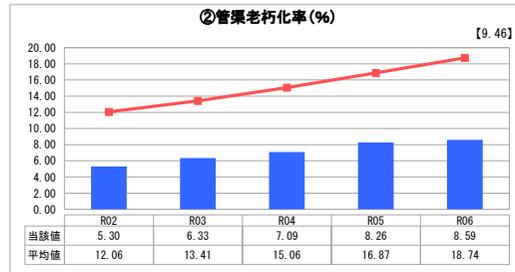
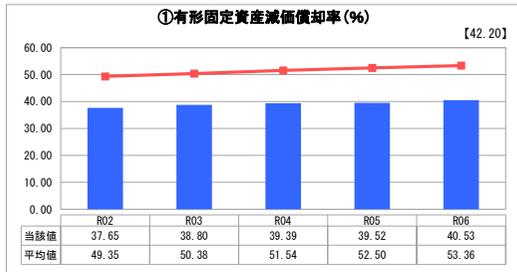
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
731,331	390.32	1,873.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
665,398	124.52	5,343.70

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%以上で推移し類似団体平均値よりも高く良好な値を示しています。  
 ②累積欠損金比率は、平成20年度以降降欠損金を計上していません。  
 ③流動比率は令和3年度以降100%以下となっており、令和6年度は人件費や物価の高騰などで費用が増加したことで低下しました。  
 ④企業債残高対事業規模比率は、一時的に増加した年度もありますが、企業債の着実な償還により残高は減少しています。  
 ⑤経費回収率は、平成29年度から100%を下回っています。これは、汚水処理に要する費用を使用料で賄っていないことを表しています。  
 ⑥汚水処理原価は、全国平均や類似団体平均を上回っていることから、経費削減に努めています。  
 ⑦施設利用率は70%前後で推移しており、類似団体平均よりも高い数値であるため、施設が効率的に利用されているといえます。  
 ⑧水洗化率は、類似団体平均よりも低ですが、着実に伸びているところです。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率や②管渠老朽化率は増加傾向にあるものの、法定耐用年数に近い資産が少ないことにより、類似団体平均や全国平均に比べて数値が低くなっています。  
 今後、老朽化した管渠施設が増加することから、中長期的な視点に立ち、定期的な点検や修理等を適切に行う予防保全により、健全度を保持しうえて延命化に努めるとともに、ストックマネジメント計画に基づき、事業費の平準化と計画的な施設の更新に取り組み、維持管理コストの縮減に努めています。

## 全体総括

将来的な使用料収入が人口減少により減少傾向となる見込みのなか、人件費や物価高騰など維持管理費の増加に対応していくため、施設や管路のライフサイクルコストの最適化を図るなど経費削減に努めるとともに、使用料改定の必要性について検討を進めます。施設等の老朽化については、ストックマネジメントの考え方に基づき現況把握と劣化予測を行い、改築更新費の最適化・平準化を図ります。職員数は減少傾向のため、委託事業の履行監視能力や、ICT等の情報通信技術の活用能力等の、職員的能力開発を進めます。将来にわたって上質なサービス提供のために、「熊本市上下水道事業経営戦略」に則った事業運営に取り組んでいます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。